「第２回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会」会議録

１　開催日時　平成30年7月12日（木）10時00分～12時00分
２　開催場所　金杉台中学校被服室
３　出席者
　金杉台中学校　校長、学校評議員　2人、PTA　2人
　金杉台小学校　校長、学校評議員　2人、PTA　3人
　教育委員会　管理部長、管理部　教育総務課課長、学校教育部　学務課長
　（事務局）教育総務課2人、学務課1人
４　会議録
　※個人に関する情報等を考慮し、発言の一部について〔略〕と表記しています。
　※学校評議員、PTAの発言を【出席者】としています。
　※（　　）内は訂正又は主旨を踏まえ補足として教育総務課が加筆したものです。
　会議録は以下のとおり。

【事務局】
皆様お揃いですので、只今から「第 2 回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会」を始めさせていただきます。本日はお忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。
まず、資料の確認をさせていただきます。次第、それから、ホチキス止めの資料１、資料２が一部ずつ、それぞれ御手元にございますか。

前回、第１回の考える会から、年度も変わり金杉台小の PTA 役員が変更となりました。今回から新たな方々にご参加していただいております。

それでは、最初に皆様、自己紹介をお願いいたします。
《自己紹介省略》

ありがとうございました。
今日の意見交換ですが、議事録を作成したいと考えておりますので、録音させていただきます。よろしくお願いいたします。
それでは、次第のとおり進めさせていただきます。まず、次第 1. 考える会について、でございます。説明お願いします。

【教育総務課長】

資料１の１ページをご覧ください。考える会の位置づけについては、前回お示しすべきでしたが、質問もございましたので、書面にいたしました。
会の目的は、金杉台中学校が、全学年単学級の状況が継続すると予想されることから、前回ご説明いたしました、「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」に基づき、望ましい教育環境について、意見交換をすることとしてします。
実際、どのように対応していくのかについては、教育委員会会議による議決事項となっておりますので、いただいた意見は、適宜報告させていただく予定です。
組織のところは省略します。その下、スケジュールと会議運営については、この後、別にご説明いたします。

続きまして、2ページをご覧ください。第１回の考える会でいただいたご意見について、集約したものです。
現状維持、小中一貫校等にする案、学区の見直しや選択地域の拡大という案、統合により一定規模を確保する、に大きく分類されるかと思います。

現状維持のところに、「小規模校の良さや少人数のメリットがある」とあり、文部科学省の手引にも、例えば、「意見や感想を発表できる機会が多くなる」、「一人、一人がリーダーになる機会が多くなる」等の記載があります。一方、複数のクラス編制ができる規模の場合、「より多くの友人と接することで、切磋琢磨し、意欲や成長が引き出される」、「部活動の選択肢が多い」等のメリットがあります。
このようななか、教育委員会としましては、全学年単学級の状況が継続する推計から、「学校規模・学校配置に関する基本方針」に基づき、何らかの対応策を検討しなければなりません。
そこで、前回出た意見を踏まえ、後程ひとつずつ取り上げていきたいと考えています。
3ページは、今後のスケジュールですが、まず本日は、小中一貫教育について、それから、学区の見直し、選択地域の拡大等の可能性について、意見交換したいと思います。
そして次回、第３回はその続きを行い、この考える会での各テーマに関する意見交換を終えたいと考えております。その後は、皆様の中からも、ほかの保護者にも聞いてほしいという意見もございましたので、地域の保護者等を対象に、地域説明会を開催し、この考える会で意見交換した内容を踏まえ、同様のテーマについてご説明をして、意見を伺ってまいりたいと考えております。
なお、ここに示したスケジュール案は、おおよその目安として考えています。

続きまして、4ページをご覧ください。教育委員会では、この考える会での意見交換の内容を、地域の皆様にも周知していきたいと考え、適宜、金杉台小学校、金杉台中学校にお子様を通わせている各世帯や関係自治会あて、チラシを配布していきたいと考えております。

現在、校正中の案でございますが、5、6ページの両面のようなものを考えております。これは、第１回目の内容をまとめたもので、今回の分もまとめていきたいと考えています。ご了解をいただければ配布先にお願いに参ります。

続きまして、7ページをご覧ください。これは、前回の考える会の後に、金杉台中と距離が近い、御滝中の学校評議員に対して、第 1 回の考える会の前に個別に学校評議員、ＰＴＡの皆様にご意見を伺った際に使用した資料を用いて、金杉台中の現状、それから、金杉台中の今後を考える会を立ち上げ、望ましい対応策について意見交換を始めた旨、ご説明してきました。その際の意見をまとめたものです。

内容については、後程ご一読いただければと思います。以上でございます。

【事務局】

ここまでの説明について、何かございますか？

それでは、本日のテーマに移る前に、まず、最初に現況のご説明をさせていただきたいと思います。

【教育総務課長】

それでは、もう一つの冊子、資料２をご覧ください。

まず、1ページから4ページ中で、年度の人数が記載されている各表については、前回の考える会の資料から、時点を更新して、平成30年度の数値を追加するなどしております。

それでは、2ページの【図 1－1】をご覧ください。今年 4 月現在の金杉台中及び御滝中の通学区域図からご説明いたします。地図上のピンク色のエリアが、4月より二和小より金杉台小へと通学区域が変更となりました。

これに伴い、中学校の通学区域としては、これまでの御滝中の通学区域で金杉台中も選択できるというものが、金杉台中が通学区域で、御滝中も選択できる場所へと変更になっています。

続いて、4 ページの【表 1－7】により、新しい推計結果のご説明をいたします。表の一番上に、平成30年度の金杉台中の生徒数を記載しています。この4月に新1年生23人が入学して、3学年合計で59名です。説明は割愛しますが、3ページの【表 1－3】に新1年生の内訳がございます。

今後の生徒数の推計では、昨年度に比べ、特に平成36年度以降、生徒数の減

少が早まる結果となっております。
　その要因としては、3 ページの【表 1－2】にある金杉台中を基本学区の居住者数が、例えば 2 歳児は 8 名ですが、昨年 5 月 1 日現在、14 名いた 1 歳児の数が、1 年後、ひとつ年齢が上がり 2 歳児になって、6 名減少しているように、実数が減少している年齢がいくつかあったことなどが影響していると思われます。

【事務局】
　今の説明について、何かございますか？
　よろしければ、本日のテーマに移りたいと思います。

【教育総務課長】
　それでは、本日のテーマである、小中一貫教育についてです。資料 1 の 8 ページをご覧ください。
　前回の考える会で、金杉台小・中を、校舎を供用する等により小中一貫校にしたらどうか、という意見がございました。
　調べてみましたら、平成 17 年度から幾つかの学校で研究を始めていて、平成 24 年度末に発行された研究報告書に教育委員会の考え方が示されておりました。
　この報告書では、小中連携教育、小中一貫教育、小中一貫教育校に分類して方向性が示されています。このうち、ほかの学校より施設面や職員体制などが特別に優遇された「小中一貫教育校」については、校庭や体育館・プール、図書室等の特別教室も小中それぞれで必要となるといった課題も多いことから、設置はしないと結論づけられていました。
　また、「小中一貫教育」は、「1 小 1 中」の通学区域の地域で、進めていくとされており、金杉台小・中には該当しないこととされています。この報告書で「1 小 1 中」というのは、いわゆる、1 つの小学校の卒業生全員が同じ中学校で進学することになる学区となっている場合のことをいっています。
　ちなみに、施設一体型が想定される、「小中一貫教育」及び「小中一貫教育校」が、金杉台中を金杉台小に一体化して、成立するのかを、施設面から分析してみました。詳細は資料 2、最後のページ、20 ページですが、教育上、小中それぞれで必要となる理科室、音楽室、図書室等を、仮に、共用したとしても、中学のランチルーム等が確保できない結果となり、現状よりかえって教育環境が悪化してしまいます。従いまして、教育委員会としましては、金杉台中の望ましい教育環境のあり方として、小中一貫教育校のようにすることは困難であると考えております。以上でございます。

【事務局】

今の小中一貫の件につきましては、前回の第 1 回のときにご意見をいただいたなかで、調べてきましたものについてのご説明でございます。

今回初めてご説明させていただいたことになるのですが、小学校の PTA の方々、初めて参加となりますが、ご意見など何かございますか？もしあれば、また後でもお願いします。

【出席者】

小中一貫教育というのを提案したのは私なので、述べさせていただきます。

今、金杉台小の PTA さんに最初にご意見をというのは、どうかなと思います。前回も出られているんであればその話の続きと、経緯を思い出していえると思いますが、なぜこうなったかというところで、以前から出ていないと説明できないと思います。

困難です…と書かれてしまっていますけれど、千葉県内でもほかの市では始めていますよね。一貫教育の研究指定校という形であるかもしれませんけれど。そういった情報はホームページにもありますからいろいろ拝見させていただきました。

一小一中の関係でなければ難しいとなっておりますけれど、ではなぜ、小中連携教育を長い間やって来れているのか。そこが問題になってくると思います。

今の中学 1 年生、…3 年生もそうですが、小中連携教育が開始してかれこれ 10 年も経つと思います。そのなかで、中学校に入った子たちというのは、何かあると、小学校と、小学生たちと一緒に何かやると。小学生のときは中学生と一緒に何かやると、そういうことがしみついて育ってきている。いろいろあるなかで、合同スポーツデーというものも定着しつつある。これが今まで小中連携教育として研究指定校といわれてきたものをなぜこの場だけで、中学校だけ枠を切り取ってしまうのか。金杉台小もどうするか併せて問題にしてくれるならわかります。

ここにきて、中学校だけが 1 クラス、増えて 2 クラスだからここをなくしてしまい、御滝中と統合してしまう、中学校だけをここにきて切り離してしまうというのは、問題だと思います。

以前からお話してますが、専門教育の 6・3 制という今の教育体制があっていないと思っています。

なぜなら、中学生の 3 年間だけで、次の一生を決めるような進路を決定づけるというのはあまりに短すぎる。

小規模校である金杉台中学校では、先生と生徒がお互いに知らない人がいないという間柄で、食べ物の好みまで知っている。そういう間柄のなかの手厚い教育で成り立ってきているのです。

教育の現場をどうするのかという問題で、ここだけ見てますと、例えば建物の老朽化で、維持が難しい、何かその、器が先にありという感もうかがえないでもない。

私が以前から述べているのは、教育の現場の体制をどうしていくかということを考えていただきたいということなんですね。

なので、困難であると書かれていますが、小中連携教育の指定校で、今は中学校は道徳の研究指定校になっていますね。この間、授業参観に評議員として参加しました。

1年生から3年生まで道徳の授業をやっていました。1年生が班分けして考えを発表している場に行ったんですが、子供たちが地域の行事に積極的に参加する、地域のゴミ拾いをするという意見が出てきている。

地域の中で、小中連携教育の中で培ってきた精神が、そういう言葉になってきていると思う。そこを大事にしていっていただきたい。少ないということがすごく良く効果を表している地域だと思います。

もう一つ、一町会の代表としていわせていただきたいのが、金杉台団地というのは、ご多分に漏れず、少子高齢化。65歳以上の方が70%占める。空き家も賃貸の地区では2割というところです。

そちらの立場でも、ここをなんとか賑やかにしようと、そういった活動に取り組んでいるところです。

団地の中の学校がなくなる。そのあとを想像していただけますか。

そういうところに若い世帯が越してきますか。若い人たちを取り込もう、バランスいい世代に街を作り直していこうとやっているところなんです。

そういう観点からも学校をなくすであったり、ちょっと離れたところに、今まで通っていたところからそちらにとか、安易には考えていただきたくない。

困難であると思いますけれど、ほかの市がやっているわけなので、船橋市が困難だからできないことはないと思います。

程よい規模だと思います。小中一貫の研究指定校にするにはですね。

いつも安定して中学校は1学年1クラス、ないしは2クラス。小学校との連携も大きくかかわってきますから、中学校だけを切り離して考えいただきたくない。というのが私の意見です。

【事務局】

一回ここで、説明いたしました研究報告書の写しを付けてありますので、資料2の15～16ページです。研究報告として平成25年3月に、まとめられた資料があります。

そのなかで、15ページ。小中一貫教育、小中連携教育、小中一貫教育校とい

う定義がございます。3つに分類されています。

先ほど課長からお話をさせていただいたのが、(1) の小中一貫教育。これは、ある小学校の卒業する児童が同じ中学校にという一小一中の場合にこういう教育をやりますということで説明させていただきました。

(2) 小中連携教育。これが、金杉台小中で取り組まれている教育についてで、す。

(3) が施設を一体化したり、校長が一人だったりという小中一貫教育校で、これについては施設的に難しいといったものです。

この報告書をまとめるにあたって、平成17年から、いくつかの学校を指定して、そのなかに金杉台小・中も含まれていまして、研究指定校として研究した結果が報告されておりますので、これが市の考え方ということでご説明させていただきました。

なお、今、豊富小中では一小一中という学区なので、小中一貫教育の研究指定校ということで今年度から研究を始めているという状況です。

【出席者】

なぜ一小一中でないとできないのですか。

【事務局】

資料2の15ページの（1）小中一貫教育とは、の定義の目標のところの3つ目の「○」にありますが、小中学校が協力して目標達成のために9年間を見通した計画を作り実践するということになっていますので、小学校の全ての子供が卒業してそのまま同じ中学校に行くということで9年間の一貫した目標を立てられるというようなところが小中一貫教育の定義ということです。

【出席者】

これは、小学校6年、中学校3年という括りの中での話ですよね。小中一貫教育の定義というのは。

【事務局】

そうです。

【出席者】

で、この定義にそって考えますと、例えば金杉台小に入ったら、金杉台中に行かなければならない、という定義になりますよね。

【事務局】
もし置き換える（金杉台小中で一貫教育をする）ならばそうです。

【出席者】
小学校から中学校に行くときに、やっぱり御滝中に行きたい、でも選択肢は与えない。今もそうですが、例えば事情があったりとか、部活だったりとか、小中一貫教育（校）とわかっているけれど、やはり御滝中を望みますという選択肢もあっていいのではないかと。いろいろなモデルがあっていいと思うんです。一小一中じゃなくても。私たちも御滝中が、この規模でやりきれないところの選択肢として、御滝中に行かれるという学区でもあります。でも、気持ちの中では団地の中の小学校、中学校。一小一中という気持ちで子供たちを育ててきたのです。定義で決めつけられてしまうとこの話はできなくなってしまうんですか。いろいろなモデルがあってもいいと思うんですが。

【出席者】
金杉台中の問題を、連携教育とか一貫教育の問題で説明しきるというのは難しいと思います。
これから人口が減る。平成 37 年か、人口がそれぐらいから減っていく。
そんなときにどうしていくのか、考えていかなければならない。
この金杉台中の話は、はしりのはしりで、これからどうしていくかということ。この場にいることも意義があることだなと。
私は一貫教育で育ってきましたし、それはすごく良かったです。魅力もあると思います。歳も違う世代の子供たちの集団に入って、特に大学生まで一緒で、とても魅力的な一貫教育だった。
それはなぜかといいますと、多様性のある人間集団に子供たちを入れるということなんです。
一貫教育を、だから別の問題で発想してですね、金杉台小と金杉台中を連携教育しようという判断するときに、雑念が入ったんでしょうね。きっと。
生徒集団が少なくなるので、一緒にしようかという簡単なもので考えてしまった。この辺の問題点があるのかな、と思います。そういう観点でこの金杉台中の問題を、一貫教育の問題だけで説明しきるのは無理だと思います。一緒にしてですね、これから人口が減っていくというときの学校教育をどうするか、子供たちを学校にどういうふうに預けたらいいかというところから、説明しないと、一貫教育だけで説明したら説明しきれない。全体の話をしてもらわないと地域住民は納得しない。
今、連携教育の実績があるのだから、これはすごくいいこと。

それを取り下げようという話をするのにあたって、連携教育だけの話では説明しきれない。
多様性のある人間集団に子供たちを入れていく。ということがすごく大事なこと。一貫教育もそういった多様性のある教育体制ではありますね。

【出席者】
一貫教育というものもすごくいい事だとは思うのですが、その前に、人口が増えているので中学校をなくさないで、どんどん中学校に来る体制にしていただいて。戸数も建ってきているので、今はうちがないところにも建ってきているので、子供たちもどんどん増えると思う。だから中学校を残して、小学校の子供たちも中学校に行けるようにして。中学校をなくさないように。地域をしっかりとここの地域を金杉台中学校に、と行くようにすればなくさないで済むのかなと。なくさないでほしい。

【事務局】
〔略〕がいわれたことは学区のことですよね。このあとじっくりやりたいと思うのですが。

【出席者】
大切なこと。中学校と小学校と一貫でやるということは。いいかなあとは思っているんですが、その難しさというものもあるのかなと。

【出席者】
学校を存続させるためには中学校の生徒を増やさなければいけないということが一番の解決策なわけです。この資料に通学区域の変更案がいくつかでいていますが、それの説明はこの後してくれるのか。

【事務局】
学区についてはこの後、もし一貫教育についての話がよろしければ、入りますが。（皆さん）次のテーマの話にということでよろしいですか。
では、通学区域の資料のほうに入りたいと思います。
それではまず、通学区域と選択地域の関係について、説明をお願いします。

【学務課長】
先ほどからお話が出ている通学区域と選択地域のことについてまず、前提となることについて、お話させていただければと思います。

通学区域と選択地域については、学校教育法施行令という法律の規定により、市町村教育委員会は、就学予定者が就学すべき学校を指定すると定められています。

【管理部長】
資料はないの？

【事務局】
今のところは、前提の考え方ということで、資料はありません。

【学務課長】
すみません、前提の考え方ということで、資料はございません。そのため、船橋市教育委員会では、あらかじめ各学校の通学区域を設定して、その通学区域に基づき就学すべき学校を指定しています。
通学区域は、学校規模や地理的要因、地域コミュニティーとの関係などを総合的に勘案して学校ごとに設定していますが、一部の地域については、地域の実情等も考慮して、通学区域以外の学校も選択できるようにしています。
今、お話させていただいたことが、通学区域、選択地域の基本的な、前提となる考え方です。

【事務局】
今までのところはよろしいでしょうか。続きまして、学区変更案のご説明をいたします。

【教育総務課長】
それでは、資料１の９ページをご覧ください。ここには、前回の考える会での意見を受けて推計しました、学区等の変更案を４つ示しております。
また、ページは都度ご案内いたしますが、資料２にそれぞれに対応した、変更案を地図に示した資料がありますので、あわせてご確認ください。
なお、資料２のこの４つの変更案を示した推計値は、この推計の基礎となっている大元の推計作業期間との関係上、平成30年度の実数時点更新した作業が間に合いませんでした。申し訳ございませんが、そこを含みおきいただきご覧ください。
まず変更案①です。資料２の６、７ページとなります。
御滝中と金杉台中の選択地域の一部を金杉台中の指定学区とする変更案として検討しました。

この推計は、町会自治会のエリア等は考慮していない仮の線引きではございますが、金杉台中の通学区域として、御滝中を選択できないこととしてみたものです。地図上のオレンジ色の場所です。
この場合、全体で６クラスとなりますが、その後再び３クラスになってしまう結果となっています。

続きまして、変更案②についてです。資料２の８，９ページです。
これは、只今の推計①に、さらに、黄色のラインで囲まれている２つの場所ですが、金杉台中の通学区域に隣接する旭中学校の通学区域の一部を追加して、金杉台中の通学区域に変更したものです。
この場合も、一時的に全体で６クラスとなりますが、再び３クラスに戻ってしまう結果となり、効果は一時的なものとなります。

続きまして、変更案③です。資料２の 10，11 ページです。前回、御滝中の通学区域のある赤いラインの範囲内は、御滝中と金杉台中を選択できる場所としたらどうかという意見がございました。
この推計に際して、御滝中が指定学区の場所において、金杉台中をどの程度選択するのかについては、今現在の選択地域における金杉台中の選択率およそ10％と同じと仮定して、計算していますが、金杉台中から距離の遠い場所の選択率はほぼ０％という実態もありますので、この推計よりもっと少なくなる可能性もあります。
この場合も、一時的に全体で６クラスとなりますが、再び３クラスに戻ってしまう結果であります。また、仮に、どちらかの中学校に選択が集中した場合、その学校の急激な学級増に対応ができず、安定的な教育環境の確保ができませんので、この案の実施には非常に多くの課題があると考えています。

最後に、変更案④についてです。資料２の 12，13 ページです。金杉台中の指定学区を金杉台小学校の指定学区に合わせて拡大する案です。
この場合、一時的に２クラス編制できる学年ができますが、再び３クラスに戻ってしまう結果となり、効果は一時的なものとなります。
また、この変更された指定学区の中に、御滝中に近い地域が含まれることになるため、近隣の方の理解を得ることは困難と考えられます。

【事務局】
前回いただいた意見を踏まえた、４つの学区変更案について、ご説明をさせて

いただきました。いずれにしても一時的に学級増となる推計結果は出ますけれど、再び現状に近い形で戻るような結果になっています。

〔略〕先ほどのご質問の続きで、何かございますか。

【出席者】

ちょっとよくわかんないんですけど、資料2の2-3の表のところなどで、何歳が何人ぐらいと合計が出してありますけれども、人口がどんどん増えているので、この数は当てにならないと思うんです。

新しい家が建っているので、新しい方が引っ越して来られるから、この数ももっと上がっていくのかなと。

71世帯のところではなく、二和のほうへ行く、グリーンハイツの近くで、その手前にあすなろ保育園が新しくできて、その前のあたりに宅地がいっぱいできています。

まだまだ畑がいっぱい残っています。梨屋さんもそのうち宅地になるのではと思っています。それから日大グラウンドという広い場所もあり、あそこも売れたという話もあるし、そこに宅地ができるのではないかとも思っています。人口はもっともっと増えて、小学校も中学校も子供たちがどんどん増えるのではないかと予想しています。

【事務局】

補足ですが、日大グラウンドという確かに広い敷地があります。本年度入ってから、私どもも売却の噂を聞きましたので、私どもの課ではないんですが、市長部局の主管課から、日大に直接確認を取ってもらったのですが、まだそのような動きは大学としては全くないということで、現状のところ宅地になるという予定があるということはないそうです。ここについては、そういう話がありました。

【事務局】

平成30年度の5月時点のお子さんの数で推計を作成しておりますが、まず金杉3丁目の約70戸のところ。金杉1丁目から3丁目の地域で、どのくらいお子さんが増えたのか確認したんですが、確かに若干数お子さんが増えている傾向がありました。特に多いのは、二和西1～6丁目で、こちらはかなりお子さんが増えていることが分かっています。

推計を作る際に、今いるお子さんがただ単純に1歳ずつ年を重ねていき、6年後に小学校に入学するという形だけではなく、地域ごとの増えていく様子というのをとらえて、補正をして作成しています。

比較的流入の多い学校では、将来増えてくるお子さんを想定して推計してい

るものです。
　確かに信じられないというご不安はあるかと思いますが、私どもも、学校の教室が足りないということがないよう、ある程度の精度をもって計算している推計だと思っています。

【出席者】
　地元にいますと、二和西の変化というのは、私どもにとってはすごく大きな変化です。今まで調整区域だったのが、どんどん住宅が建っていき、梨畑があっという間に宅地になって変わっていっている。
　〔略〕もいわれているとおり、減るのではないかという実感ではなく、増えるのではないかという実感を私も持っている。
　金杉町会の 71 世帯についてもそうですが、この辺が推計の中にどのように入っているのか、聞きたいと思います。
　少ない少ないといわれても、まわりがどんどん家が建って、若いご夫婦が入ってきて、子供たちがいて、という状況があるわけです。そういうなかで減っていくという説明を、地域の皆さん方にしきれるかというとなかなかしきれない。それをしっかり予測の中でしていますという説明がほしいです。

【事務局】
　推計の中で、例えばどこかに 1 つ戸建てができました、というようなところは、社会変動の中の伸び率で飲めてしまう話です。ある程度まとまった、建売りの大規模マンションのような場合ですと、開発に関わる情報が入りますので、大きなものが入る場合は、過去の伸び率というところ以外に、上乗せをします。過去のデータでわかっている、どれくらい子供がマンションなどができると増えるかというものを、追加でのせるということをしています。数字だけでみるとどうなってるのかといわれますが。
　例えば、津田沼近辺では、一つ大きなマンションが計画が始まり着工しているという情報があり、そこを見ていくと、何年後かにもしかしたら教室が足りなくなるかもという学校も確かに出てきています。市内全体として、それぞれの学区の変動を見ながら計算をしている数字です。

【出席者】
　金杉の 71 世帯のところは全て完売と看板が出ていたけれど、あそこは小学校は、どこにいくのですか。中学校はどこに行くのですか。

【事務局】

小学校は高根小の学区です。

【出席者】
道路を挟んで高根小に行くんですか。金杉台小にくればいいのに。
決まっているのですか。中学校は？

【事務局】
中学校は御滝中か金杉台中かで選べる選択学区。

【出席者】
小学校も中学校も、金杉台のほうにくればいいのに。

【出席者】
ちょっと違和感がありますね、線引きどおりというのが。
噂でなので、自分の目で確かめたわけではないんですが、旭中学校と高根中学校が教室を増設しているという噂を聞いたんですけれど。
変更案には旭中学区を金杉台中学区に変更する案というのもありますが。

【事務局】
確かに、旭中は数年前に増築がありました。旭中の生徒数が延びている要因はどちらかというと、塚田とか法典小といった西側の住まいによって増えたことにより、教室不足が発生するということで増築したという経緯があります。
資料の 8 ページにある旭中学区から金杉台中にという変更案を作成しましたが、あまり金杉台中側のほうに子供たちが住んでいない。現実的に通学距離等を勘案して、仮に行けるところを入れたら、ということで入れた部分が 8 ページの案になっています。

【出席者】
高根中に関してはそういう話は？

【事務局】
ないです。

【出席者】
少子高齢という社会問題に関係してきますよね。どうやっても子供の数は、急に何百人も増えるとか、新船橋のあたりのようなマンモスマンションが建たな

ければ、この地区ではそういうことはありえない。
　今の連携教育というものの、いいところしか考えられないのですが、教育課程の中で、小学校・中学校でやっているか分からないんですが、防災の観点でもすごく活かせると思う。小学校は、避難訓練があり、全校校庭に出て、親御さんが迎えに来て、引き取りにくるという訓練を毎年やっている。
　それを例えば小中連携の授業の中に取り入れるとか。小学校 1 年生、低学年は、自分の身を守ることを考える。両親がいないとき、一人で遊んでいるときにどうしたらいいか。
　中学年はさらに身を守ることを考える。
　高学年はちょっと下を守れるようになる。
　中学にいったら今度は下の子たちを自分たちが助ける。そういった 9 年間教育というのが、小中連携教育で活かせるのではないか。防災ですね。
　子供でも 10 歳過ぎれば人を助けられる人間なんだと。
　という教育も小規模校の中の小中連携ならでは。できることなんです。
　お隣の大規模校ではとてもですができない。
　大人たちが避難所運営協議会を設けて、大人たちの中でやるというのは、今、いろんなところでやっています。
　でも子供たち自身が防災で被災を受けたとき、自分たちがどう動くか、日々の訓練の中で取り入れる教育もここならではないかと。

【出席者】
　以前小学校だけで行った話し合いでは、小中連携の話は出なかったので、小中一貫について、ここにきて初めて見て、こういう意見もあったんだと驚きが強いです。
　個人的な意見としては、今、あすなろ保育園の周辺の畑など、持っている方もやっぱり高齢なので、そのうち全部、一戸建てが建つのではないかと話がでているので、推移として数字だけ挙げられていますが、今いる現状の数字なので、今後畑が一戸建てになった場合って、誰もわからないですよね。土地の持ち主の方がどうするか。そこをもうちょっとなんか、考えたりは…。

【事務局】
　推計の作り方になるかと思います。
　今いわれている地域は、恐らく地図の水色の地域でのお話だと思われます。資料 2 の 2 ページの地図で、水色、又はピンク色の地域の選択できるところで、二和西の 1・2・3 丁目のあたりでしょうかね。
　お子さんの数の全体の傾向ということでお伝えします。（金杉台中と御滝中を

含む）赤く囲まれている中の、中学生のうち、私学に行かれてる方を除くと、294 人中学 1 年生がいます。小学 1 年生は 363 人（正しくは 356 人）います。1 歳児が 240 人（正しくは 238 人）です。

特に、水色の選択できる地域と、白のそれぞれ金杉台中か御滝中か決まっている指定学区とで、傾向が異なります。水色の選択地域は、お子さんが増えているという傾向があります。

実際に水色の地域のお子さんの数をお話させていただきますと、今 1 歳のお子さんが 79 人（正しくは 77 人）、今 2 歳のお子さんが 76 人（正しくは 72 人）。ちなみに今 2 歳のお子さんが去年 1 歳のときは 67 人で、1 年間で 9 人（正しくは 5 人）も増えているという傾向がありました。増減率とすると 1.13（正しくは 1.07）という数字です。普通でしたら、1 歳の子がそのまま 2 歳になって、100 人が 100 人になり、そのまま変わらないと思われますが、こういった開発があって転入が強い傾向の地域を増減として 1.13（正しくは 1.07）という数字になります。こういった過去増減の傾向をきちんと捉えています。

今 79 人（正しくは 77 人）いますが、過去の傾向の 1.13（正しくは 1.07）など平均を掛けていくことで、おそらく 6 年後、小学校 1 年生になるとき何人になるのかというのは、1.13（正しくは 1.07）など過去の傾向を掛けて、掛けて・・・と計算していきますので、そのような形で今後の傾向を把握しています。

あくまでも過去 5、6 年の傾向を平均しているので、当たらないよといわれることもありますが、おおむね今まで推計を作っていくなかで、まったくそれが捉えきれていないということはあまりなかったので、教育委員会ではこういった方法で推計をしてきています。

白で塗られているところ、金杉台中の指定学区ですとか、御滝中の指定学区では、あまり増える傾向がなく、水色の地域ではお子さんが増えているということは、きちんとつかんでいます。

赤枠全体のお子さんの数としては、今の中学生よりも小学生 1 年生のほうが一学年のお子さんの数は増えています。小学 1 年生の 363 人（正しくは 356 人）いますがその先今の、1 歳のお子さんは 240 人（正しくは 238 人）。これから増えるだろうとは思われますが、120 人近く少ない状況です。推計でゆくゆくとどうなるか作っていきますが、123 人の差がどこまで増えていくかというところはあると考えています。分かりにくいですかね。

【出席者】

…ごめんなさい、まだぴんとこないんです。

【事務局】

水色のエリアで 1 年で何人から何人に増えているかということで、1 年間で 1.13（正しくは 1.07）というのは、ありました。それは 1 年間のある年齢、ここでは去年 1 歳の子が今年 2 歳になるときにですが、増減率が 1.13 倍（正しくは 1.07 倍）に、人数として延びましたということでした。そういった過去の平均値を当面、中学生になるまでの最大で 12 年間となりますが、継続的に伸びているこのエリアは引き続き伸びていきますとして、毎年 1 歳、歳をとるごとに、増減率をかけ、また翌年、1 歳、歳をとるときに延びるでしょうということで、毎年毎年伸び率をかけていくことになるので、6 年後にはもっと大きな数字になる。伸びの大きいところはさらに増えて増幅して増える。そうでないところは逆に減っていく。そういった結果を推計上で出てくる。動きがなければ同じ子供がそのままという形になります。そのエリアの動きを加算することによって増えたり減ったりするということです。分かりにくいですかね。

確かに、推計の性質上、未来の正確な動きがどうなのかというのは今の時点ではわからないので、確かにそこを的確にとられることは、そのときになって振り返ってみればという答えあわせの世界になりますが、今、その地域で起きている宅地開発等の影響は、仮定でしかないんですが、それは継続するとして計算をした結果ということで、そこは加味されています。

【出席者】

船橋は住みやすいとテレビか何かでみたんです。人口も増えてますよね。二和のあの付近であっても、どんどん開発されると皆さん考えています。

住みやすいといわれたら、みんなやっぱり船橋に来てしまうと思うんです。あの辺、人口が増えるかなと予想はしている。

若い人しか来ないだろうと。年寄りは借金してまで家を買えないから。

【事務局】

市内全体で見ますと、都市計画上の制限などによって、戸建てしか建てられないエリアと、海側などマンションが建つエリアと、条件に差がありますので、同じ敷地に対して、人口の増は場所によって違ってくると思います。

【出席者】

マンションでも建てればね。建っちゃえばね。

【出席者】

宅地のことで、赤のエリア（御滝中の基本学区）で畑が宅地になる。1.13（正しくは 1.07）などの伸び値でいくと、子供たちはどれくらい増えるんですか。

そういうこともやっているんですか。

【事務局】
それを検証したうえで推計となります。中学一年生になるときのお子さんの人数を出します。
ただし、金杉台中の白の地域（指定学区）は、あまり人が増えていないため、伸び率を掛けてあげられなく、今いるお子さんが学年が小さくなるにつれて少なくなっているので、将来の推計も縮んでいく。あくまでも水色の選択区域は比較的伸び率もあり増えていく。

【出席者】
二和西の地区の水色のゾーンだけでなく、白いゾーンも増えるのではないかなと思う。御滝中は受け入れることはできるのでしょうか。将来ひょっとして、やっぱり金杉台中が必要になるという話にはならないのですよね。新都市ができるわけではないから、無論、御滝中で受け入れることはできるとは思うんですが。その辺の推計は。

【事務局】
今日はテーマが小中一貫と通学区域の変更案であるので、御滝中のほうのデータは持ち合わせていないので、次回にお示しします。

【金杉台小学校校長】
校長として、発言するというのはよろしくないかもしれないんですが、今年から私は法典東小の校内研究に関わっています。法典東小は子供が増えていますよね。やがて 1,000 人になるというんですね。私が丸山小にいたときには、法典東小には増築校舎がなかったけれども、今は建って、新しく 10 クラスぐらい教室を作ったんですよね。それでも足りないのか、それでいっぱいなのか。どこに子供が増えたのか聞いたら、この学区図のエリアに入っている。霊園の裏あたりが増えているんですね。

【出席者】
船取渡ってのあたり、金杉十字路より少し先、馬込沢駅に行く途中に戸建てがすごく建った。

【金杉台小学校校長】

馬込沢駅に行く途中に戸建てがいっぱい建った。
法典東小の校長は、毎日通学時間に立っているという。
子供たちが船取と木下を渡る。そして学校に行く。何とかならないかと。危なくてしょうがない。いつ事故が起こるのかわからないと。
そういうリスクがある。だからといってどうというわけではないが、霊園に挟まれているので金杉台小・中に行く近道がない。
団地の北側は船橋市の土地ですよね。

【出席者】
船橋市の土地は駐車場にするところだけ。緑地は私有地だろう。
団地の柵を取っ払ってしまえばこっちのほうがよっぽど近い。

【出席者】
道路が途中で終わっているところが、あるんですよね。

【金杉台小学校校長】
一校長として、子供たちの安全面を考えている。

【出席者】
こちらからいくと、金杉十字路曲がって坂を下り切ると、霊園の入り口の手前の右側の子供たちがこっちに来るとしたら、霊園を通って、今度そこに駐車場もできますから、アクセス道路で歩道は年中通れる。団地に入って来れる。信号なしで歩いてこられる。

【金杉台小学校校長】
そうすると馬込十字路方面をずっと行くよりも近い。

【出席者】
全然近いし車の往来もない。

【金杉台小学校校長】
結論として何がいいたいかというと、金杉台中を真ん中に据えて、コンパスで引いたときに、こっち側（東側）だけで、旭中の学区があるのだけど考慮されていないと思う。真ん中に金杉台中が来るような学区なら、金杉台中が増えると思う。

【事務局】
今、開発が起きているのは、地図でこのあたり（資料２のＰ.8 旭中との学区変更を考えた黄色囲みの地区の左側）。中学校が御滝中、金杉台中と旭中の３校から選べる。やはり小学校の学区が法典東小なので、旭中も選べるようにしている。馬込町と金杉町の一部で、旭中に行く方と御滝中に行く方に分かれて、金杉台中は選択する人がいない。

【金杉台小学校校長】
来ないよね。

【出席者】
部活がない。

【出席者】
通学路がない。アクセスする道路がないので来ない。アクセス道路ができればこっちにも来やすい。安全に来れる。ただし霊園を通ってとなるので、行きはいいけれど帰りが怖い。

【事務局】
今話題にあがったエリアの子供は旭中と御滝中の推計に含まれている。

【金杉台小学校校長】
法典東小の校長はかわいそう。毎日、今日は安全に登校できるか…と過ごしていて。難しいですよね。
霊園もあったり、日大グラウンドもあったり、難しいのはわかるんですけれども、市全体の都市計画みたいなものがね。

【事務局】
学区には長い歴史もあるので、確かに全ての学校がその地域の真ん中にある訳でない。それを整理しに行こうとすると、地元の自治会の分断してしまう可能性もあり、場所によっていろいろな事情がある。

【金杉台小学校校長】
自治会はいいんじゃない。私が住んでいる町会は〔略〕と分かれている。

【事務局】

最近の話では、自治会の分断がよろしくないからといって、（学区を）まとめるという経緯もある。

【出席者】
御滝町会もそうですよね。金杉台小学校ですが、金杉台中と御滝中と選べるところが分かれている。

【出席者】
二和小にも行ってますね。

【出席者】
そういうところで、何かありますか、問題が。問題はないでしょう。

【出席者】
ないですね。

【出席者】
赤枠の中、指定学区の地域であるけれど、これ全部を金杉台中と御滝中の選択地域にしてしまったら…という手はないの？

【事務局】
資料 2 の 10 ページです。白抜きのところが黄色になっている地図です。赤い御滝中だったところを、どちらでも選べますとしたものの推計結果です。

【出席者】
グループ黄色と水色と分かれているのを全部同じ（選択）にできないの？

【事務局】
計算はそのようにしていまして、黄色のエリアから、例えば金杉台中にどの程度行くかを足した推計は、水色のエリアからおよそ 10%の人が金杉台中を選択していますので、黄色の部分も同じように 10%が選択するだろうという想定です。黄色のエリアの上端は八木が谷中のほうが近いといったこともあるので、実際には距離的に御滝中よりも（金杉台中は）遠くなるので、10%がかならず選択するかはわからないということですが、数字上は、10%が金杉台中に行くとして計算してます。

【教育総務課長】
先ほどから旭中、御滝中のほうとの学区を選択にする話がありましたし、金杉台小学校から中学校にそのまま学区が持ち上がってくればという話、これは小学校と中学校のそのままというと、小中一貫校の話にもつながるものかな、というところです。
まずは資料の 2 の 8～9 ページで馬込霊園の近くの新しい住宅。そこを学区として入れた場合の推計です。これでやっても将来、平成 41 年度にはまた 3 学級となってしまう。
先ほどの小学校と中学校が、金杉台小学校行っている子供たちが持ち上がりで金杉台中学校にそのまま行くという推計では 12～13 ページですが、これもやはり平成 38 年度には 3 学級となってしまいますし、つまり小学校に入ってくるお子さん自体が少なくなってきちゃうのかな、と。
そうするとその、やはり問題的には同じなのかな、と。

【出席者】
宅地造成事情って、住んでる私たちも全然読めないんですよ。少子高齢化がどう響いていくか、田畑を手放す人がどれだけでてくるのかも。私たちも読めなくて。何もあわてて、中学校をどうするか、問題にすることもないのかなと。今ここで。まだまだ余白がある地域なんですよね。

【出席者】
まあ、10 年間は延命できる。

【出席者】
このまま、この小ささを利用して、一貫教育を視野に入れながらの連携教育を進めながら様子を見ていけばいいんじゃないか。
なんやかんや 20 年以上なくなるんじゃないか、と、噂が出ては生き延びてきましたから。

【教育総務課長】
宅地造成が可能な地域は選択地域ですので、そこもやはり視野に入れてこの推計を作っていますので、選択でどちらかを選んだうえでの推計です。
開発されていった場合、どれだけ増えていくかはこちらでもわからないですが、要は選択区域になりますので、金杉台中だけに、そこで建った子供たちが増えていくわけでもないかと。

【出席者】
良さというか小中連携ということで、ここの特徴を前面に出す教育を出していただいて、そういうのをやっているんだと選んで来てもらう。そういう学校にしていただきたいのですね。
こうやって見ると御滝中学校の学区が広いですね。良く通っているなと。遠くから歩いて通っているなと。

【事務局】
市内全体で中学校の学区は市内に 27 校あるので、比較的御滝中に近いような、広い学区はあると思います。

【金杉台小学校校長】
校長として、教育委員会の方針に逆らっているとかそういうことではないのですが、校長として、私が抱えている子供たちの中には金杉台中に行きたいという子供たちがいるので、いる以上はその子たちを守ってあげたい。
その子たちが、どうすれば金杉台中に行けるのか、考えてあげたい。そして金杉台中に行って 3 年間終わった後、町に残れるように育てていきたい。そうなるためにどうしたらいいかということで考えている。別に逆らっているわけではないので。お間違えのないように。

【出席者】
ここの 3 階の教室入ったことありますか。すごいですよ、窓の借景がすごいんです。
授業参観で、初めて入ったんですが、3 階から見ると、あそこの緑と団地の 2 棟が上半分見えるだけ。ここから見える高圧線の鉄塔も見えないので、まるで足立美術館。
学校の教室からこんなに緑が見える場所はないです。
小学校だって、教室から見ると、住宅が見えますよね。こんなに勉強するのに環境がいい場所はない。

【出席者】
そういわれると金杉川の斜面の雑木林もいいですよね。
自然教育などを特徴づけて、一貫教育というのも面白いですね。

【出席者】
勉強していてふっと見えるのは緑だけ。人工的なものは何も見えない。

子供の環境として最高。うらやましい。
学区を広げて、10 年間延命している間にどうなるか、それを期待するしかない。

【管理部長】
いろいろご意見をいただきありがとうございます。
金杉台中学校に対する皆さんの熱い思いを十分に感じました。
金杉台に行きたいお子さんがいるから、その子たちを守ってあげたいという気持ちもよく伝わっております。
一方で、御滝中に、部活だったり大勢の友達ができるからなど、いろいろな理由で行きたいけれど、住んでいる場所で金杉台中に行かなければならないという小学生の親御さんの思いも聞いています。今日はそういう話がでなかったので、一つお考えいただければなと。
船橋市では、学校規模としては中学校は 12 学級以上が望ましいとしている中の 3 学級です。6 学級になったからそれでいいと教育委員会が考えているわけではないです。もちろん小規模校が悪いといっているわけではないんですが、それはもちろん中山間部だったらそういったことがあって、この金杉台中学校でも校長先生はじめ先生方は頑張っていただいていることも十分承知はしていますが、それでも 3 学級しかないという学校を選ばなければならない。いろいろな事情がおありとは思います。もっといろんな友達に会いたい。部活を 6 年生のうちから決めなければならない。それはとてもつらいことだという声を聞いているので、大人のひとりとしてそれでいいのかなという思いもあります。
6 年生で部活説明も仮入部もしないでバスケやサッカーをやるなど決めなければならない。入ってみたらとなりの部活のほうが楽しそうだな、御滝中の子はそれで部活を変えられるけど、学区外から指定校変更で行く子はそれができない。それを 12 歳の子供に強いていることはいいんだろうかと。私はどうしても見過ごせないんではないかという思いをしております。

お子さんが高根小から選択地域で御滝中を選んだという友達から、なぜ御滝中を選んだか聞いたのですが、小規模校で 6 年間過ごすと、この子はこういう子というイメージがついてしまって、それを自らの力で変えることができないというんです。お前は乱暴な子だといわれるとそう思われて 6 年間いってしまう。おとなしい子はおとなしいまま 6 年間いってしまう。小規模の中学校に行くとそれは変えられないので、中学校に行って大勢の中に入って、新しい自分に出会いたいということです。
小学校でそういうこともあったんだ、6 年間って長いから、考えてもみなかっ

たので、びっくりしたんですけれど。

子供にとってどうなのか。小規模校の良さを否定するわけではないですが、やっぱり切磋琢磨できない。たとえば運動会も、すごく仲良く小中学生でやっているところを拝見しました。校長先生も小学校の子供たちに配慮している様子もあり、良く思ったけれど、やっぱり中学校は、うちの子供がマンモス校だったのですが、ものすごく足の速い子がいてすごいなって、そういう体験をさせてあげたいですし、部活ですと、自分も転校し〔略〕たときに、前の学校にはなかった管弦楽があって同い年でこんなすごい演奏ができるんだとびっくりしました。前の学校では部活がなかったので体験できなかったわけで、私も音楽をやりたいと思い、高校大学は音楽系のサークルに入って、そういう出会いがマンモス校にもあって良さがある。マンモス校がいいというわけではないが、一定規模があるところだと、良さがあることは自らの体験でもあります。

それが、59人の学校ではなかなか、ないというのは子供たちにとってどうなのかなということもある。

もちろん小規模校で、すごく合っているお子さんがいることも全く否定していません。先生と仲良くなれたほうがいいというお子さんがいるのも事実ですし、どっちかというと私もそういう子供で、大人数では埋もれてしまう子供だったので、それがいいだろうというのもありますけれど、都会である船橋市で、片や59人の学校。片や1,000人に近い学校があって、選べる子と選べない子がいる不公平があるということ、ではどうしたらいいのかな、そういったことを踏まえて、金杉台中の今後がどうあるべきなのかもう少しお考えいただきたいな、という思いもあります。

これから入る小学校のお母さま方から、ぜひその辺の思いが何かあれば、皆様にお聞かせいただきたいと思います。

（管理部長が事務局に確認中）

【管理部長】

ごめんなさい。（金杉台中にはない）サッカー部を希望して御滝中に入って、（金杉台中にある）野球部には変更できないけれど、（金杉台中にはない）陸上競技部には変えられる。ということです。

【事務局】

基本は3年間続けていただくということで、指定校変更はお受けしますので、あまり望ましいことではないと思いますけれども、元の学校に部活がないというのが指定校変更の基準の中にありますので、金杉台中の学区の子が金杉台中

にない部活に入りたいので御滝中を希望するというのであれば、申請していただいて、その基準の中で、実際に部活を移ることは可能ですが、ただ、実際に実例はほとんどないです。

【出席者】

選べなくてかわいそうだというなら、だったら全部学区を取り外してしまえばいいのではないですか。それで、御滝中と金杉台中を選べるようにしてしまえばいいのではないか。それがかわいそうという思いがあるのならば、選べるようにすればよいだろうし。

〔略〕

選べる学区なので、〔略〕それぞれ自分で選んでよかったな。と思います。

御滝中に行って景色をみるとやはり違います。御滝中からはこんな緑は見られないですし、金杉台中からの景色は緑なので、すごいと思いますし、教育的な、勉強する環境としてはとてもいいなと思います。

〔略〕大きい学校でいろんな人と出会える、小さい学校で、自分のことを良く見てもらうなど。普通はそれを高校で選べるけれど中学校はここと決まっているので、選択肢があるのは贅沢だと思う。中学校のうちから選べるというところはありがたかったなと思います。

確かに 3 年間通して 1 クラスよりも、2 か 3 クラスぐらいあれば、ほんとによかったなと思うこともありますが、でもそこもわかってて本人はここを選んでいますので、デメリットも多感な時期だから悩みもたくさんあります。ああだったらいいなとか。個々を大事にしてもらえるので、御滝中に行ったら自分は埋もれていたけど、金杉台中にきていろいろなことで見てもらっています。

受験に対しても、例えば面談でも 1 年生のときから丁寧にみてもらってそこから自分の進路についても考えられる。

御滝中に行ってる子は選んだので御滝中の環境に合っているんですが、そのなかで、大勢を統率するためには、〔略〕大きい学校から見たら、外れた子がいたら統率を取らなければならない。〔略〕中でちゃんと見てくれる、贅沢。ありがたかったなと思います。

やっぱりその、何が大事かというと、人数も一貫校という話もあるかもしれないですが、子供たちが行きたいという学校の中身づくりをすればいい話です。

部活をやりたかったら御滝中を選べばいいし。個々を大事にしてもらったり、金杉台中では英検をやってもらったり、中 3 になって子供たちが夏休みに何したらいいかわからないというときに、先生たちが夏休みの時間を使って全教科のようなことをしてくれたり。

どうやってやったら子供は行きたくなるかという学校を作ってあげれば、子

供は必然的にその中身で行きたいなあと。その中身を作ればいいのでは。
　そうなると先生の力量が問われてくる。ちゃんと子供たちを見守ってあげれるような先生を置いてくれる。少ない先生の人数の中で少ないから…じゃなくて小さい学校の中で、個々を大事にしてくれるというような先生に来てもらえれば、必然的に金杉台中に行きたいって子が増えるのではないかなと思う。

【出席者】
　すごく難しいですね。魅力ある学校作り。自由にどうぞってなると、義務教育でみんなの税金で、子供たちを育てるっていうときにやっぱり学区がないとだめですね。学区がなくてどうぞ、ってなると、偏ってしまいますね。
　どっと来たときに、子供たちの面倒をみれるか。
　そのへんはどうしても学区を置かないとならないでしょうね、義務教育なので税金で、子供たちを育てていくっていう観点からは、どうぞ自由にというわけにはいかないでしょうね。
　枠をはめなければならない。枠の中で魅力的な学校づくりをしなければならないのでしょうね。

【事務局】
　先ほど説明したとおり、基本的には就学すべき学校を指定させていただくということで、船橋市では規則の中で就学すべき学校を決めさせていただいております。住所で切ることになりますので、そのなかである程度地域の事情が考慮できるようにと、選択地域を設定したり、指定校変更制度で地域の実情に応じて選べるような地域を作っているということです。
　どうしても、学校の規模などを考慮すると、完全に自由、とくに船橋市のように人口が多くて、住んでいる人が北と南で偏りがあるなかで、完全に選択させるという制度を導入するというのは、かなりリスクが高いということもあるので、実際の学校運営を考えながら、どこまで通学区域を柔軟にできるのか、非常に難しい課題だなと思います。

【出席者】
　全部っていうことではなくて、こういうふうにちゃんと学区の中で現にしてるっていうことは、このなかでも自由に選択できるということを踏まえてこういうことシミュレーションしてるんですよね。
　全て船橋全体で自由じゃなくて、この今、示されたとおりに、このなかで指定学区だったり、例えば馬込町をいれた中での学区だったりとか、選択を自由にしてもいいんじゃないかという話なんで。

【出席者】
ここは特殊事例ですよね。

【事務局】
おっしゃるとおりで、金杉台中と御滝中の学区は市内の中でもかなり特例です。
まず選択地域がとても広いこと。逆に金杉台中の通学区域がかなり狭い。しかもまわりに御滝中に囲まれるような形になっている。
中学校同士のほうが近くて、小学校同士が離れている関係もあって、小学校と中学校の通学区域がくっきり一緒に分かれていない。
そのようないろいろな難しいことがあります。
そのなかで、金杉台小の子がそのまま金杉台中に行けるように御滝中の通学区域の中で、金杉台中を選択できるようにした選択地域がありますし、そのあと、金杉台中の生徒さんが少なくなるなかで、規模の格差をできるだけ解消しようと、かなり大きく御滝中の通学区域から金杉台中を選べるように設定したり、選択地域の中で、それぞれ目的が違う区域が混在しています。もしこの通学区域を変えるとなるとそういうことも考慮しなければならないかと思います。

【事務局】
金杉台中の学区は特殊という話もありました。小学校の PTA の方々は、これから中学校に入るにあたり、住まいによって選択ができるところ、できないところあるかと思いますが、今、このようなお話の中で何か感じていることはありますか。

【出席者】
〔略〕サッカーが好きな子で御滝中だろうという子も、金杉台中に行きたいというのを聞いた。理由を聞いたら、中学でバスケ部がなかったのが、子供たちの意見で、同好会ができたことを知って、自分たちが発すれば、もしかしたら作ってくれるんじゃないかという希望をもって、サッカーの同好会を作りたいよね、という話を聞いた。
バスケットの同好会を作ってくれた学校がすごいな、と子供の意見を聞き入れてくれて。それを聞いてた小学生も、僕たちもそうしようかという気持ちを持てていることがすごいな、と感じて、〔略〕がおっしゃっていましたが、学校側の動きというのも重要なんじゃないかな、と感じています。
〔略〕ただこの人数の推計も、今の部活の状況で何年か後に減ってしまうとな

っていますが、部活動が同好会などで増えていくならば、子供たちも金杉台中に行きたいと増えていくんじゃないかな、と感じています。

【出席者】
私自身は、金杉台小を卒業して、選べる地域で御滝中に行きました。部活に入って中学校も楽しかったけれど、こちらに行ったらまた違ったのかな、と思います。
子供は〔略〕金杉台中に今は行きたいといっています。私も金杉台中に通ってほしいので残してほしいです。何回か会議に出ていて、残す方向ではなくて、なくす方向で会議がされているように思ってしまいます。部活がどうこうっていうんであれば、もうちょっとこう、行きたくなるように部活を増やすとか、何か、金杉台中はこんなにいいんですよ、と、もっとＰＲして来たくなるようにしてほしい。できれば残してほしいです。

【事務局】
すみません、決して誘導しているわけではなく、いろいろな事実をお知らせすると、そういう部分も見えてしまう。ということで。

【出席者】
それもわかるんですけど、何年間で減ってきたというのも出ているのに、何年間どういうことしていただいたのかな。減ってきたのは見えているじゃないですか。
この 10 年間猶予ある中で、残り 10 年をここで、何をしていただけるのかな。
今後を考える会、残して行ってほしいなと、思ってます。

【出席者】
第１回の話し合いで、小中一貫とか、学区のことを提案して、教育委員会の方が上の方と話して、答えが出てくるのが２回目になるんじゃないですか。
2 回目で小中一貫はこうなのである。学区は一時期増えるがまた減ってしまう。そちら側としてはどちらも×とはいわないにしても、こちらがせっかく提案しても、書面上とか計算上で結局はダメなんじゃないかとう話になると、意味がないというか、何のためにこんな 2 時間もかけて集まっているのかな、というのが大きいです。
子供たちはかわいそうではないんです。来たくてこっちに来てきてますから。
部活がどうのこうのといわれますが、ある部活で頑張っている子もいますし、変な話、少ないから選手になれますからね。結果はその子によって違いますけど。

それでいいってわかってきている話なのでかわいそうではない。
　選べないんだけど、御滝に行きたい。それがかわいそうなんだっけ？
　そっちばかりなんで見ちゃうのかな。

【出席者】
　そういう子は行っちゃってます。

【出席者】
　そういう子は、行けばいい。
　金杉台中に行きたい子は来ればいい。変にこういう会があると、金杉台中がなくなってしまうんじゃないかなって噂が広まる。それが却ってよくない。
　今いる子だってかわいそうだし、ここがなくなっちゃうのかなって。今から金杉台中に来ようとしている子はなくなっちゃう学校なら行かないほうがいいんじゃないかな…という話にもなるから。あんまりこういうのを、噂っていうのが広まっちゃうので、こういう会も大切なんでしょうけど、提案してもそれはちょっととなると、来てもあまり話にはならないですし。本当に残そうとしてくれる話し合いならいいんですけれど、2 回ぐらい出ているけど、そういうふうに聞こえないんです。
　敵ではないんですけど、意味があるのかなあという気がします。

【出席者】
　ここではしていないんですが、なくなっちゃうんだって？って聞かれるってことは、どこかで流れているんですよね。
　なくなるってわけではないんですけど、考える会で話し合っていることは確かです。そういう話はしますが、やはりイメージですよね。こういう会議があると、なくなるということが広まってしまう。というのもおかしな話で。
　〔略〕も言ってますけど、選択肢を残しつつ、本人たちも選ぶ資格、権利はあると思う。選択肢は残しつつ、中学校の良さ、特徴を宣伝していただけないでしょうか。
　部活の話は、学校評議員会のときに校長先生から伺ったんですね。部活って行ったところにあって当たりまえ。これをどうやって作り上げていくのか。同好会からはじまって、人数を集めて、顧問の先生を決めて、こうやって部活ってでき上がっていくのか。というのもいい教育だと思います。バスケ部もできた。今度はサッカー部を作ろう。少ない人数の中で、どうやって人を集めるんだろう。生徒が先生に協力を求める。
　〔略〕在学中のときいらした先生でもう異動されましたが、ここの学校に来る

と、とにかくいろんな役割をしなければならない。担任から、ほかのことから、自分のキャパがすごく広がる。そういう話をしていらっしゃいました。教職員にとっても生徒にとっても、何かしら自分が抱える利用の仕方によっては成長ができる。社会人として必要なものを身についていくと思うので、そこの良さを金杉台中学校は伸ばしてほしい。

【出席者】
この会は、自由に自分の悩みを吐き出すことが必要だと思います。
それが私たちには決定権はない。ガス抜きか、というわけでもない。
我々ができることは、私どもの希望、考えていることを申し上げる。それをみんなで議論する。言ってもしょうがないじゃなく、言うべきで、そういうことが大切。

【事務局】
皆さん、いろいろな意見をありがとうございました。予定の時間がせまってきましたので、残りは次回も継続して検討させていただきます。
それでは、次回第 3 回の日程です。大変恐縮でございますが、夏休み期間や学校の予定等の関係から、あらかじめ、両校長先生にご相談の上、決定させていただきました。次回は、8 月 28 日、火曜日の 10 時から 12 時の時間帯で開催させていただきます。会場等は別途ご連絡させていただきます。夏休み最終週の期間中で大変恐縮ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。
では、第 2 回考える会はここで終了とさせていただきます。
本日は、お忙しいなかご参加いただきましてありがとうございました。